

① 寺島実郎 著

『何のために働くのか：自分を創る生き方』

(文芸春秋)

学生の皆さんにとって、就職が一番の関心事ではないでしょうか。では、「何のために働くのか」と考えた事はあるでしょうか。「皆が就職するから」でしょうか、それとも「生きて行くため」でしょうか。

苦勞して決めた仕事も、就職後3年以内に3割の人が会社を辞めて行く事にも話は及んでいます。どうしたらこのような事態を防ぐ事が出来るのでしょうか。就活を始める前に、仕事とは何かという原点に立ち返ってみてはいかがですか。(T.F.)

159 || Ter

③ 白取春彦 著

『「深読み」読書術』

(三笠書房)

精神の核といえるのものを自分の身のうちに形成するためには、出会いが必要で、その出会いのための手段の一つとして書籍は、「濃く」・「豊かに」生きる方法を教えてくれます。その書籍の読み方や選び方を知ることにより、深い読書は、100人の教師にまさり、読書法が変われば人生が変わります。そして深くて大量に、速く書籍を読み、視野が広がる事は頭の整理法でもあります。この快適読書ライフを会得し楽しんでみてはいかがでしょうか？又、この時代の変化へいち早く対応するためにも、書籍と人との新しい関係づくりへの展開に役立てる事ができるのではないのでしょうか。「人生のヒントは本の中にある」(M.F.)

019 || Shi



② 人見光夫 著

『答えは必ずある： 逆境をはね返したマツダの発想力』

(ダイヤモンド社)

エンジン技術だけでハイブリット車並みの超低燃費を実現したマツダSKYACTIV。他者に比べて圧倒的に少ないリリースで何故それが実現できたのでしょうか？そこにはどんな発想力が秘められているのでしょうか？本書では、世界を驚愕させた究極のエンジン開発を指揮した著者が執念の秘話を明かしています。そこには、逆境の中でどうしたら成功に導けるのかというスキルが満載です。

これからの生きる糧になることは間違いありません。(S.S.)

537.067 || Hit

④ 高野潤 著

『新大陸が生んだ食物：トウモロコシ・ジャガイモ・トウガラシ：カラー版』

(中央公論新社)

中南米には我々の想像以上に様々な食物が存在します。ジャガイモだけでも様々な色や形の異なる物があります。大根のような大きさや形をしたものもあれば、外見はジャガイモでも、味はサツマイモと同じものもあります。サツマイモと言えば、江戸時代の青木昆陽が日本本土で初めて栽培しましたが、その原産地も実は中南米にあるのです。スーパーなどで見られるトウモロコシやジャガイモ、カボチャなどの原産地も、殆どが中南米です。

本書はこれらの食物を、図解を多く交えて紹介しています。地域ごとの食文化や暮らしなどについても詳しく紹介されており、植物学の観点からだけでなく、旅行でも役立つ一冊です。(H.I.)

383.8 || Tak